

患者誤認防止への取り組み

旭川医科大学 山品将祥先生、佐々木駿先生

概要：当院では Linac 2 台，放射線治療統合システムとして ARIA (Varian medical systems, Inc.)，放射線治療部門情報システムとして TheraRIS (横河医療ソリューションズ) を用いて外部照射業務を行っている。放射線治療室へ来室した患者様は，診療券あるいはリストバンドのバーコード(外来患者様は前者，入院は後者)を用いて，治療室受付において TheraRIS による受付を済ませ，ARIA から Linac へ照射情報の送信を行って照射が行われる。この際，従来の業務フローでは，ARIA および Linac へのデータ送信が手動であったため，医療従事者のヒューマンエラーによる患者取り違えで起こる誤照射の危険が潜んでいた。(図 1) この危険を回避させるためには，手動作業を回避する事が重要と考え，業務フローの見直しを行った。新たなフローでは，バーコードリーダー(ウェルコムデザイン株式会社)を導入し，ライナック入室時に再度のバーコード認証を行うことによって，情報を直接的にライナックへ自動送信するシステムに変更した。(図 2) この変更によって，業務フローにおける認証全てがバーコードのみで行われるシステムとなったため，誤照射の危険を回避する事が可能になった(図 3)。

また，診察券やリストバンドの取り違えの可能性もあるため，TheraRIS および ARIA には顔写真を登録して入室時に視覚的確認する事や，受付時およびライナック入室時には患者様にフルネームで名乗って頂く事でも誤認防止に努めている。毎回の来室時や 1 回の来室時に複数回名乗って頂くことは，患者様にストレスを与える可能性もあるが，これらの確認はタイムアウトとしても重要であり，チーム間や患者様とのコミュニケーションを促す事にも役立っていると考えている。

図 1

従来の外部照射業務フロー

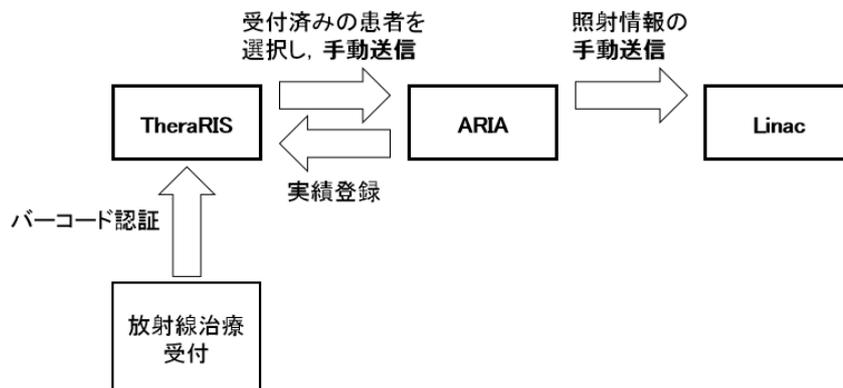


図2



バーコードリーダー



TheraRISに添付する顔写真



ARIAに添付する顔写真

図3

変更後の外部照射業務フロー

